

死んだ生き物は

土に還るだけなんだよ

べそべそしたって

戻ってきやしねえんだ

どんなに惨めでも

恥ずかしくても

生きてかなきやならねえんだぞ



嘴平伊之助

「鬼滅の刃」第8巻より

「信じると言われたならそれに応えること以外考えんじゃねえ！！死んだ生き物は土に還るだけなんだよ。ベソベソしたって戻ってきやしねえんだよ。悔しくても泣くんじゃねえ！どんなに惨めでも恥ずかしくても生きてかなきゃならねえんだぞ」 by 嘴平伊之助

ジャンプコミックス「鬼滅の刃」/ 吾峠呼世晴作 第8巻より

◆私はこの伊之助が一番好きなキャラ！野生児で猪突猛進、シンプルでわかりやすいのよね。

—わかる～。アタシなんか、主人公・炭治郎が、森に逃げ込んだ猗窩座に刀を投げつけて、絶叫するところから終わりまで、もうずっと泣きっぱなし！

ママも映画の結末には感動！深傷の煉獄さんが炭治郎らに語りかけて、そのあいだ伊之助ずっと耐えててさ。

炭治郎が泣きながら「悔しいなあ。またすぐ目の前に分厚い壁がある。俺は煉獄さんみたいになれるのかなあ」って、そこに同期・伊之助が「弱気なこと言ってんじゃね～！」と悲しみ堪えてゲキを飛ばすでしょ。それがさらに涙ポロポロ！けどなんか救われたわ～。

—そういえば、捨て犬だったマリーが死んだ時も、お坊さんが土にかえるって言ってたよね。それでもアタシ、涙はとまんなかったよ。

それはもっともよ。たしかにどれだけ悲しんでも生き返らないんだけど、お坊さんも、泣きたい時は思いっきり泣けばいいって言ってたし。我慢せずに泣いたり悲しんだりすることで、死んだことを受け入れる心のスペースができるそうよ。時間かかってても。

伊之助は捨て子で、山の中で獣たちと住んでたっていう設定でしょ。感覚重視、打たれ強いっていうか、自然の中の生き死にに鍛えられてるって感じね。

—ねえ、死んだらどこ行くのかな？この前先生が、悪さすると死んだあと地獄落ちて、鬼に痛い目にあわされるぞ！って怒ってた。ホントかな～？

◆え～っとそれはね..。死んだら「鬼籍に入る」とか言うんだけど、それは地獄の門番で裁判官・閻魔大王がもつ閻魔帳のこと。アナタの通知簿じゃないけど、生前にうそついたり人をいじめたり、悪いことも良いことも全部記録されてるって。罪が重い人は地獄で鬼にキツイお仕置きされるの、火炙りの刑とか！

—いやや～～！アタシは絶対、天国に行く！

前のお坊さんは天国でなくて、お浄土がナントカと



か言ってたわ。そこには仏さんがいて、その仲間になって、あとに残った私たちのことを心配しながら見守ってるって聞いた。あまり悪いことしないようになって。ママもメンタルしんどいときはそう思ったりするよ。

—へ～、仏さんってどんな人？

う～ん、たぶん人ではないけど、心がとっても広くて清らかな人かな。で、皆を救おうと働いてる人。お仏壇の仏さんって後ろから光を放ってるの知ってる？その光は何にも遮られないし届かない場所もなく、照らされた人は完全に目が覚める、最強に明るい光なんだそう。

鬼滅の鬼って日光に当たらないと死なないでしょ。つまり夜の闇で何年何百年と生き続ける。でももし何万年も続いてきた暗闇でも、光が差し込んだとたん破られちゃう。暗い心だって仏さんの光で晴れるのかも。

—光の束？なんか炎柱っぽいじゃん！アタシが宿題できずにへこんだ時にもその光ってあんのかな？

◆宿題できてもできなくても届いてるんじゃない？信じてるかどうか関係ないのが、仏さんの光らしいから。

逆に私たちが、仏さんとか亡くなっていった人から信じられてる、願われてるんだよってお坊さんが言ってた。皆それぞれ人生でもらった宿題があって、それをしっかりやりなさい、いつも応援してるからって。

煉獄さんも最後に「若い芽は摘ませない、君たちを信じる、打ちのめされても心を燃やせ」って三人を励まし、後を託して死んでいくよね。きっとそれが彼の果たした責務、宿題の一つだったのよ。

手負の炭治郎に「君が死んだら俺の負けになってしまふぞ」って諭すでしょ。こことても印象深い。ヘタレでもなんでも生きぬかなきゃ、煉獄さんの働きが無駄になっちゃう。伊之助はギャン泣きしながらまっすぐそれに応えようとするのよね。

誰か受け継いでくれる人がいて、そのいのちの意味が全うするっていうか、つながっていく。鬼滅の他のキャラ見てもそう思うわ。マリーだってアナタにたくさん可愛がってもらえて、今度は見守る光になったのよ。応えて行こうね。(文責：報恩寺 林 暁)